紙面から大地へ：共に歩む文学の道

山岡様、そして日本の『土地』読書会の皆様へ贈る、
河東26土地研究会からの感謝と連帯のメッセージ



Gemini Notebook

【離陸 (イリュク) 】

韓国語の「26（イリュク）」と同音。
読書文化を新たな次元へと飛躍させるという私たちの誓い。



【1926年】

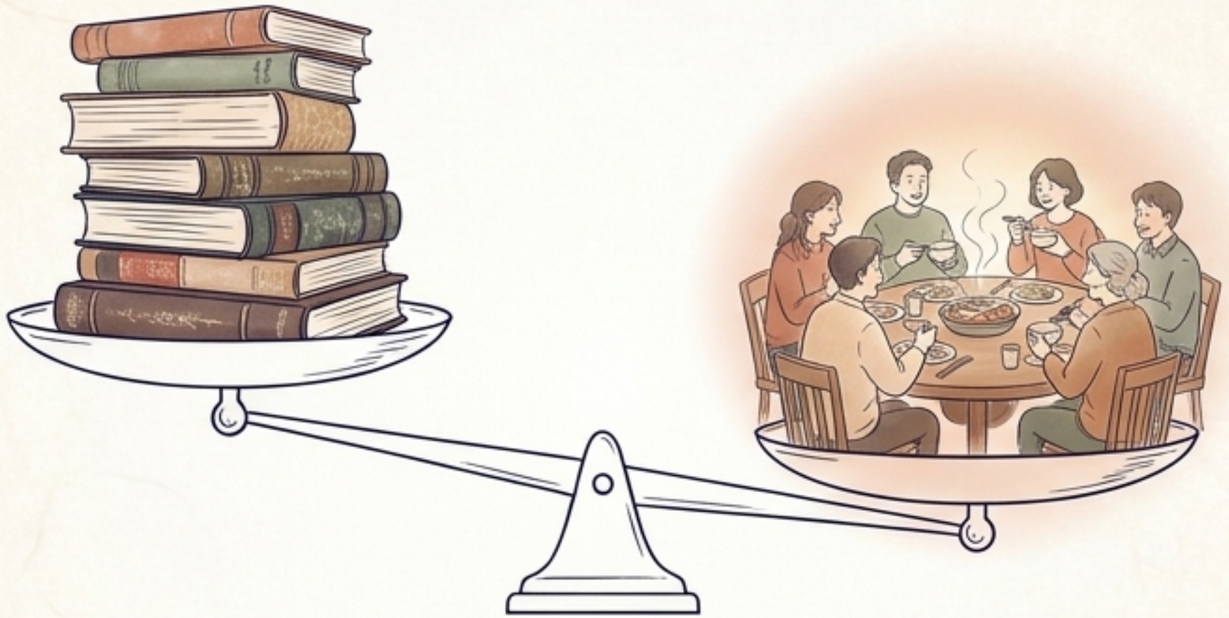
朴景利（パク・キョンニ）
先生の誕生の年。
すべての物語の始まり。

【26年の歳月】

1969年から1994年まで、
大河小説『土地』が執筆された
偉大なる忍耐の歴史。

Gemini Notebook

「本よりも、まず人が先」



私たちが大切にしている哲学です。
『土地』を読み解く知識も重要ですが、それ以上に尊いのは、隣に座る人の
人生に耳を傾け、食事を共にし、日常を分かち合うこと。
文学とは、究極的には「人」を理解し、愛するための道標であると私たちは信じています。

Gemini Notebook



物語を、日常の風景へ

本を閉じた後、私たちの本当の読書が始まります。
活字の中の歴史や感情を、現実の土と風の中で
体現すること。
それが「生活の中の文学」です。

Gemini Notebook



歩む (Step)：文学紀行

歴史の舞台を自らの足で歩き、
土地の記憶を呼吸する。



育む (Grow)：『土地』の庭園

小説に登場する花や木を10年か
けて育て、季節の変化の産進
化を登場人物と共に感じる。



宿す (Embody)：市民ミュージカル

平凡な隣人が舞台に立ち、登場人物の痛みを
自らの身体で表現する。



分かち合う (Share)：平和のビビンバ

異なる背景を持つ人々がひとつの器に集い、
調和を味わう。

Gemini Notebook

歴史の道を歩む



晋州（チンジュ）、南原（ナムォン）、平沙里（ピョンサリ）。小説の舞台を実際に歩き、南江のほとりで台本を朗読することで、活字世界の世界が現実の息吹を持ち始めます。

季節を育む



庭にノウゼンカズラやザクロ、ツツジを植え、10年にわたり手入れを続けること。それは、登場人物たちが見上げた同じ花を愛で、同じ時間を生きるという静かな祈りです。

Gemini Notebook

他者の心と身体を宿す

2025年11月、専門の俳優ではなく、共に本を読んできた町の住人たちが舞台に立ちました。
ソヒ、キルサン、ウォルソンになりきることで、登場人物の深い悲しみと尊厳を肌で理解しました。

「人が人を無視するようになれば、天使も悪魔になるのです」

— 小説『土地』より。人間の尊厳への深いメッセージを、自らの声で世界に響かせました。

Gemini Notebook

国境を越えた、文学の交差点



2026年5月22日。平沙里（ピョンサリ）の崔参判（チェ・チャムパン）宅にて、韓国と日本の『土地』読者が出会いました。
一つの壮大な物語を愛する心が、言葉や歴史の壁を越え、私たちを同じ中庭へと導いた奇跡のような瞬間でした。

Gemini Notebook

勇気と深い共感への敬意

植民地時代の痛みを伴う歴史を、加害の歴史を持つ側から読み解くこと。
その計り知れない困難と向き合い続けた皆様の誠実さに、私たちは深い感銘を受けています。

> 「朴景利作家は、自らを振り返らせる『厳格な母』のような存在です」

― 山岡様のこのお言葉は、痛みを伴う真実を共に直視することが、
真の平和への第一歩であることを教えてくれました。

Gemini Notebook

「平和のビビンバ」という希望



異なる歴史と人々

＋



『土地』を愛する心

＝



真の調和と平和

8月15日―小説『土地』が脱稿された日であり、解放の日。
会員がそれぞれ持ち寄った異なるナムルや具材が、ひとつの器の中で混ざり合います。
それぞれの素材が個性を失うことなく、見事な調和を生み出すビビンバ。
これこそが、異なる歴史や言葉を持つ私たちが、『土地』という物語を通じて平和と友情を育む姿そのものです。

Gemini Notebook

文学の土壌で、共に続く物語

最後のページをめくった後も、
私たちの物語は終わりません。

日本の『土地』読書会の皆様、
遠く海を越えて平沙里の土を踏み、
同じ思いを共有してくださったことに、
心より感謝申し上げます。

これからも「生活の中の文学」を通じて、
共に平和と友情の道を歩んでいきましょう。
本当にありがとうございました。

